

ふれあい情報

速報

■発行 日本高齢・退職者団体連合(退職者連合)
 ■発行人 羽山 治美 (編集人) 林 道寛
 ■連絡先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11
 Tel:03-5295-0507 Fax:03-5295-0541
 <e-mail>taisyokusharengo@sv.rengo-net.or.jp
 <ホームページ>http://tr.jtuc-rengo.jp

2015年7月1日(水)

第210号

(速報の記事・写真の転載は自由。データが必要な場合は送付可)

第9回連合・ILEC幸せさがし文化展

<写真の部> ILEC 大賞に田中廣子さん(クラレ労組 OB)

5部門で退職者連合入賞者は一三人

応募総数三、六九六点、退職者連合は昨年の三倍 一四八八点

趣味の発表の場にとぞ

七月一日、「第九回連合・ILEC幸せさがし文化展」の入賞者が発表になりました。この文化展は、連合と教育文化協会(ILEC)が主催して退職者連合が後援しているものです。今年で九回目となる文化展には、総数で三、六九六点の応募がありました。退職者連合関係では、昨年の三倍近い総数一四八八点の応募がありました。審査の結果、写真の部でUAゼンセンシニア友の会・クラレ労組岡山支部の田中廣子さんがILEC大賞を受賞するなど五部門で一三人が入賞しました。これだけ多くの受賞者は、退職者連合として初めてのことです。

退職者連合の参加について教育文化協会の村杉直美常務理事は「退職者連合からは前回に比べて百点近い応募増をいただき、感謝しています。退職者連合の会員の皆さんが日頃から取り組んでいる趣味などの文化活動の成果を発表できる場としてこれからもこの幸せさがし文化展をぜひともご活用ください」と応募に期待を寄せています。

幸せさがし文化展は、連合の定期大会開催年に合わせて二年ごとに開かれています。部門で募集・審査が行なわれているものです。絵画、写真、書道、俳句、川柳の五部門で募集・審査が行なわれ、入賞作品は、定期大会会場に展示されるとも

に入賞者は定期大会の中で表彰されています。退職者連合からの応募が増えたことについて阿部保吉会長は「会員の皆さんが日頃から培っている生きがいづくり、趣味の励みにしていただこうと、今回から退職者連合の機関紙ふれあい情報やホームページで積極的に参加を呼びかけました。その結果、多くの会員が応募してくれました」と語りました。

入賞の方々は以下の通り。(敬称略)

<絵画の部>

シニア特別賞/市川貞夫(日産エルダークラブ) 秀作/下原彰禮(日産エルダークラブ)

<写真の部>

ILEC大賞/田中廣子(UAゼンセンシニア友の会クラレ労組岡山支部)・シニア特別賞/山中蓮温(UAゼンセンシニア友の会クラレ労組岡山支部の家族)・秀作/三ツ石不二夫(基幹労連退職者の会川崎重工坂出OB会)

<書道の部>

シニア特別賞/森下克己(全印刷局退職者の会)・入選/井上一郎(JR連合退職者連絡会 JR西労組)・特別審査員賞/藤原節子(NTT 労組退職者の会岩手県支部協議会)

<俳句の部>

シニア特別賞/平井辰夫(UAゼンセンシニア友の会クラレ労組西条支部)・佳作/佐々木久仁子(NTT 労組退職者の会奈良県支部協議会), 今泉敏雄(NTT 労組退職者の会青森県支部協議会)

<川柳の部>

入選/石神美智子(NTT 労組退職者の会千葉県支部協議会), 浅井迪(NTT 労組退職者の会神奈川県支部協議会)

●退職者連合では、入賞者全員の喜びの声を退職者連合のホームページ「お達者だより」のコーナーでこれから紹介していきます。

「カジノ解禁について考える」

第5回院内学習会 ● 報告

日本のギャンブル依存症患者 536万人 (厚労省調査)

カジノ解禁法案の廃案をめざす日弁連(日本弁護士連合会)は、六月二四日、衆議院第二議員会館一階の多目的会議室で「カジノ解禁について考える院内学習会」を開催しました。学習会には、消費者団体、市民団体、弁護士、国会議員など九〇人が参加。退職者連合からも六人が参加しました。

主催者あいさつでは、日弁連副会長の松葉知幸弁護士が「博打が個人の生活や人生を破壊し、社会に悪影響を与



▲「なげなしの年金をカジノの食べ物にはさせられない」と怒る菅井次長。



▲決意を述べる中央労福協の大塚事務局長。

えている。カジノ推進法案は国が人の弱みに付け込んでいくという法律であり、許せない。廃案に向けてがんばろう」と決意を述べました。

が報告。二〇一四年八月二〇日の厚生労働省調査発表によるとすでにパチンコ等の影響でわが国のギャンブル依存症患者は五三六万人にのぼり、諸外国に対して日本の数値は異常とも言える高さ指摘しました。さらに野末医師は、病的賭博者の実態、ギャンブルの種類、ギャンブル費用・借金の状況を明らかにし、「依存症患者の二大特徴は、借金とウソにあり、配偶者や子どもが追い詰められていく」と指摘しました。

犯罪を生み、家庭を崩壊させる

井上善雄 弁護士

弁護士の観点からは、「カジノと犯罪問題」に長く取り組んでいる井上善雄氏が「公認カジノで違法な賭博はなくならない。カジノは金と性目的の歓楽として売買春の場にもなる。また利権や汚職の場となり、マネーロンダリングや脱税など犯罪資金が流入し、反社会的組織と必ずつながる。カジノで負けた客の自殺や心中もカジノの罪だ」と警鐘をならしました。

各団体からの報告では、退職者連合の菅井義夫次長が「退職者連合の多くの会員は、年金で暮らしている。なげなしの年金をカジノ賭博で持っていけるわけにはいかない。商売の中で麻薬、賭博、売春は昔か

ら三悪といわれ、日本の法律は、この三つを禁止してきた。安倍政権は、カジノを経済再生の起爆剤にするというが、本末転倒だ。廃案まで断固闘いたい」と表明しました。中央労福協の大塚敏夫事務局長も報告に立ち、「労福協が取り組んできた多重債務をなくす運動とこのカジノ推進法案をなくす運動は、重なり合っている。この法案は、認められない。一緒に闘っていききたい」と述べました。



▲90人が参加した第5回院内学習会。第186国会の会期が9月まで大幅に延長された中、参加者は、法案阻止へ決意を固めた。